

消費税10%への引き上げに反対し、地域経済守れ！

……上越民主商工会が市に要請

上越民主商工会（上野正信会長）は5日、上野会長ら6人が市役所を訪れ、市長あての「地域経済の振興を図るため、中小商工業者への施策拡充を求める要望書」を提出。産業振興課長、建築住宅課長など関係課の幹部と懇談しました。日本共産党議員団の3人の市議も同席しました。

要望書は①住宅リフォーム助成制度を継続実施し、使い勝手をよくする改善を行うこと、②店舗等改装促進事業における補助上限額を50万円に引き上げること、③国民健康保険税の引き上げをしないこと、④地域経済と地域住民の生活を破壊する消費税の増税に反対すること、中小企業に多大な実務負担を押し付ける軽減税率や適格請求書（インボイス）制度の実施に反対することなど7つの柱から構成されています。

要望書を受けて市側は、「住宅リフォームの制度については、毎年度検証しつつ、実施している。平成30年度からは国の交付金がなくなる中、すべ



て一般財源で7500万円計上した。屋根の葺き替え、塗装が一番多く、次いで外壁、壁、床と続いている。申請の簡略化は検討していく」「店舗等改装促進事業は30年度、142件交付決定し、おおむね予算満額となった。上限額を上げるかどうかについては全体のバランスを考えながら対応していきたい」「国民健康保険は今年度から広域化された。国保税は据え置いたが、私たちのほぼ推計通りとなった。31年度も引

き上げない予定だ」「消費税の増額反対は市として表明は考えていない。市内では、準備はこれからというところとすでに終わっているところの2極化が進んでいる」と答えました。

今回の要請で改善の方向が見えたものもありますが、今年最大の問題は消費税増税です。参加者は増税を許さぬたたかいを強めていく決意をしました。



【オオイヌノフグリ】オオバコ科の越年草。漢字で「大犬の陰囊」と書きます。早春の花として親しまれていますが、早いものは12月頃からライトブルーの花を咲かせます。写真の花は赤紫色で、極めて珍しい。2月5日、吉川区大乘寺で見つけました。

最賃引き上げに市も協力を

新潟県の最低賃金は現在、時給803円。関東甲信越・北陸の13都府県中、最下位。このままでは地域経済が疲弊し、地域が荒廃する。中小企業対策を強化し、新潟県の最低賃金を引き上げるためにぜひ新潟県地方労働局長に要請していただきたい――新潟県労働組合総連合（略称は県労連、佐藤一弥議長）は6日、上越市役所を訪れ、市長あての要望書を提出しました。

参加者は「公務員の初任給と比較しても、また、農業委員会の農作業賃と比較しても、格差は歴然としている。若い人がどんどん都会に流れている。これを防ぐためにも最賃を上げてもらいたい」となどと訴えました。

応じた土橋均副市長は、「小規模企業でも賃金を上げられる土壌づくり、体力作りが重要。みなさんのおっしゃることは十分理解できると答えています」。



はしづめ法一の活動レポート

No.1896 2019.2.10
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五四四回

三年日記帳

話には聞いていましたが、三年日記帳というものを初めて見せてもらいました。見せてくださったのは上越市の山間部で一人暮らしをしているK子さんです。

日記帳はB5サイズ、一ページに横書きで三年分書き込めるようになっていました。もちろん、上から一年目、二年目、三年目の順です。左の欄外には、「怒りは敵と思え」などといった故事・ことわざが書いてあって、その横に午前と午後の天気を書きこむことができます。

一ページは大きく二等分されていて、二日分書くことができます。日記の欄は各年ごとに一〇行、用意されています。その右には、「収支の覚え」という欄もあって、買物の記録を残せるようになっていて、買す。なかなか便利にできています。

私がK子さん宅を訪ねたのは一月一七日でした。兵庫県南部地震が発生し、阪神淡路大震災と呼ばれるほど大きな被害が出た日です。すでに二四年経過していますが、テレビは朝から特集番組で関連ニュースを放映していました。

「おらうたりでは、たしか、この日、新しい町長さんが初めて登庁した日だったかね」そういつて話し始めたところ、Kさんは二階まで上がって、三年日記帳を取りに行ってくれたらよかった。

しばらくすると、Kさんは紫色の風呂敷に包んだ日記帳を持って来られました。風呂敷を開けると、何と七冊も入っているじゃありませんか。聞くと、三年日記帳だけ一〇冊もあるというのです。その前の段階では、昨年二月に亡くなった私の伯母と同じように、農協の「家の光」のものを使って一〇年ほど書いていたとか。ということは、少なくとも四〇年は日記をつけていることになるかと。おらうたりでは、たしか、この日、新しい町長さんが初めて登庁した日だったかね

さて、K子さんの日記ですが、いうまでもなく個人情報がたくさん書かれています。遠慮しつつ、少しだけ見せていただきます。見せてもらったのは、阪神淡路大震災の前年から三年間の一月一七日など数日分の記録です。

大地震が発生した一九九五年（平成七）一月一七日の日記には、「新聞配達、六時三〇分。きょうも雪が降り続く。道つけない新聞配達に出る。（中略）ご飯も食べずに内職もって行った。（後略）」などありました。そして赤いボールペンで、「午前六時より地しん しんげんち（あわじ島） 大阪あたりもたいへんな為、高田へ電話した。無事とのこと」と書いてありました。

赤いボールペンで書かれているところは、「収支の覚え」欄にもありました。翌年の一九九六年一月一七日の「収支の覚え」欄には、「バス代480円、パーマ2500円 買い物1800円」と赤字で書いてあったのです。こういう事情があったのかはわかりませんが、Kさんにとって重要なことだったのでしょう。

驚いたのは、日記のあちこちに線が引いてあることでした。最近では赤や青のクレヨンが使われています。例えば二年前の一月一七日の日記、「〇▲十一時過ぎに来てくれた。お茶一ぱいのんで、5時迄おひるも食べないで仕事していった」という文章には赤いクレヨンで線が引いてありました。

どうやら、K子さんは線を引きながら日記を読みなおしておられるようです。赤や青のクレヨンで一日一日を振り返り、また次の日も書く。それだけ一日一日を大切に生きてこられたんですね。一日も休むことなく、今夜も日記を書き続けるK子さんの姿が目に浮かびます。

韓国総領事が講演

市議会の勉強会で、駐新潟大韓民国総領事館の鄭美愛（ジョン・ミエ）総領事から「韓日関係のあすを考える」と題して講演していただきました。

講演によると、日韓の国交正常化当時、年間1万人だった交流人口は、いまや1000万人に拡大して



いるとのことでした。いま、日韓関係はぎくしゃくしていますが、歴史に正面から立ち向かう姿勢と韓日両国の心の触れ合いが大事で、お互いに知り合う必要があるとの指摘はうなずけました。なお、新潟総領事館が所管する区域の在日韓国人は、新潟が1789人、長野が3453人、石川が1400人、富山が900人とのことでした。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	1月30日(水)	2月6日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.040	0.057
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.043	0.053

卒業作品のレベルの高さにびっくり

小川未明文学館で行われていた上越総合技術高校3年生の卒業作品展を観てきました。

ブックカバーや高田公園のピクトグラム(絵文字)・看板を意識した作品など優れたものがありました。看板などはすぐにも使えそうです。高校生のレベルの高さにはびっくりでした。

